

FOIS 経口摂取レベル記録シート v2

FOISは「実際の経口摂取状況」を1～7で整理する尺度です。嚥下障害の重症度や誤嚥リスクそのものを単独で示す尺度ではありません。

評価日		患者ID		氏名		評価者	
-----	--	------	--	----	--	-----	--

1. FOIS 1～7 早見表（判定の核と隣接レベルの境界）

Level	大分類	判定の核	隣接レベルとの境界
1	経口摂取なし	食品・飲料を経口摂取していない	経口試行が始まれば Level 2 以上を検討
2	補助栄養に依存	経口は少量の試行にとどまる	継続した経口摂取になれば Level 3 を検討
3	補助栄養に依存	食品・飲料を継続して経口摂取している	栄養・水分をすべて経口で摂れれば Level 4 以上を検討
4	全量経口	経口摂取できる食形態が1種類に限られる	複数の食形態に広がれば Level 5 以上を検討
5	全量経口	複数形態を摂取できるが、特別な準備・代償が必要	特別な準備・代償が不要なら Level 6 を検討
6	全量経口	特別な準備は不要だが、特定食品の制限がある	食品制限がなければ Level 7
7	全量経口	経口摂取に食事上の制限がない	FOIS上の最上位

2. 判定に必要な情報（入力欄）

補助栄養	☐ なし ☐ あり ☐ 経口摂取なし		
経口摂取の範囲	☐ なし ☐ 少量試行 ☐ 継続して摂取		
食形態	☐ 1種類 ☐ 複数形態 ☐ 該当なし		
特別な準備・代償	☐ 不要 ☐ 必要 ☐ 該当なし		
特定食品の制限	☐ なし ☐ あり ☐ 該当なし		
FOIS判定	Level : _____	判定根拠（隣接レベルとの境界が分かるように記載）	

3. 安全性・観察所見（FOISの直接判定条件とは分けて記録）

☐ むせ・咳	☐ 湿性嘔声	☐ 疲労	☐ 姿勢	☐ 介助量
☐ 呼吸状態	☐ 口腔内残留	☐ 摂取ペース	☐ 一口量	☐ その他
観察所見メモ				

4. 再評価の目安（固定日数ではなく、判定条件が変化するとき）

☐ 補助栄養の開始・中止・量の変更	☐ 経口摂取が「少量試行」「継続」に変化
☐ 全量経口へ移行 / 全量経口が困難になる	☐ 食形態が1種類 複数形態に変化
☐ 特別な準備・代償の要否が変化	☐ 特定食品の制限が追加・解除
次回再評価 予定・条件	

参考・注意

本シートはFOISの判定を補助するrehabilikunblog独自の記録用紙です。原尺度の設問票・公式様式ではありません。

1. Craty MA, Mann GDC, Groher ME. Arch Phys Med Rehabil. 2005;86(8):1516-1520. doi:10.1016/j.apmr.2004.11.049
2. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 編. 嚥下障害診療ガイドライン2024年版.
3. 日本老年歯科医学会. FOIS (functional oral intake scale).